

## 第63回中・四国小学校体育研究大会（島根大会）を終えて

中・四国小学校体育連盟  
島根県小学校体育連盟  
会長 杉原孝尚



第63回中・四国小学校体育研究大会・島根大会が、神話と自然に恵まれた「縁結びの地」出雲市で開催し、盛況のうちに終えることができましたことを大変喜んでおります。島根県小学校体育連盟は、大会主題「動いて自覚し 動きの質を高め合う しまねっ子」の下、県内すべての市町村で研究領域を分担していただき、『なりたい姿』『「できそう」「できた」の連続』という視点をもって、研究・実践を進めてまいりました。体育の好きな子どもたち、体育の好きな教職員が増えることを目標とし、日々の体育学習に生かせる提案を続けています。本研究大会に向けては、参加された先生方の教育活動に資する成果を提供できることを目指して準備を進めてまいりました。

また、令和7年は、中・四国小学校体育連盟創立70周年を迎えた年でもありました。昭和31年の発足以来、体育学習指導の向上を目指し、歴史と実績を積み重ねてきました。70周年記念の年に島根県で研究大会を開催できることを名誉に感じ、誠心誠意を尽くして大会運営に努めてまいりました。

当日は、中・四国各県より約400名の先生方にご参加をいただきました。2つの会場校による7つの提案授業、授業検討、県内外発表者による13の提案発表が行われ、積み重ねられた実践・研究を共有することができました。さらに、中・四国小学校体育連盟スーパーバイザー 日野克博先生のご指導、国立教育政策研究所 塩見秀樹教育課程調査官のご講演を拝聴することができました。それぞれの場で得られた成果が、中・四国各県の体育授業の発展・充実につながることを確信しております。

結びに、本大会の開催にあたり、温かいご支援・ご協力を賜りましたスポーツ庁、島根県教育委員会、出雲市教育委員会をはじめ、関係団体の皆様に厚く御礼申し上げます。さらに、会場校として研究発表に真摯に取り組んでくださいました出雲市立さくら小学校・出雲市立平田小学校の皆様に、心より敬意と感謝を申し上げます。

来年度の第64回中・四国小学校体育研究大会（香川大会）の成功をご祈念申し上げます、お礼の挨拶とさせていただきます。

## 第63回中・四国小学校体育研究大会（島根大会）

島根大会におけるアンケートの記入にご協力いただき、ありがとうございました。  
中・四国小学校体育連盟では、皆様からのご意見・ご感想を生かし、実際の教育現場に役立つ研究大会をめざしてまいります。今後ともよろしくお願いいたします。

### 大会主題について

- 「できそう」「できた」が連続する」という副主題が、教える教員にとって分かりやすく、授業を計画する上でのテーマになった。「なりたい姿のイメージをもつ」という考え方は、体育の指導の始まりとして大切であると再認識された。
- 「島根らしさ」を活かした取り組みであり、現行の学習指導要領の趣旨を深く踏まえた研究の方向性が明確に示された。また、「誰もができる」体育の必要性という点で共感を呼んだ。

### 提案授業Ⅰ及び授業協議について

#### <2年 器械・器具を使っでの運動遊び>

基本技能の習得とゲーム性を両立させていた。テンポの良い授業展開、児童への的確な声かけが参考になった。少ない教具の準備で多様なイメージを持たせて活動を行う点が参考になった。リズムに合わせたマット体操など、基礎技能を身に付ける工夫が優れていた。

#### <4年 ゲーム>

ゲーム領域で2対2など、系統性を大切にされていたことが素晴らしい。運動量が多く、誰でも取り組めるネット型の実践が参考になった。ごによごによタイム（途中の作戦タイム）など、子どもの実態に合わせて指導する工夫が良かった。

#### <5年 陸上運動>

多くの子どもに運動の楽しさ、達成感を味わわせる場の設定や工夫が考えられていた。踏切足に付けたゴム紐は、技能習得への支援として有効だった。4つの視点に児童が意識して取り組みやすくなる手立てが取られていた。

### 参加人数について

島根	愛媛	香川	岡山	徳島	広島	高知	山口	鳥取	合計
202	26	35	50	13	18	12	24	22	403

※兵庫県1名、 中・四国役員40名含む

## 提案授業 2 及び授業協議について

### <1年 体づくり運動>

すごろくランドの場作りや音楽が素晴らしく、子どもたちがワクワクして活動していた。先生が全ての子ども意見を受け入れる態度が素晴らしい。低学年でも準備、片付けを一生懸命行う姿が証明され、教師の意識付けが伝わった。

### <3年 表現運動>

選んだ題材、テーマ設定が素晴らしく、子どもたちがイメージを持って取り組んでいた。教師がファシリテーターとして、子どもの活動を支援していた。ICTを活用し、それぞれの場で音楽を鳴らしていたのが良かった。

### <6年 ボール運動>

運動量が豊富であり、攻守の切り替えがスムーズだった。運動が苦手な子を伸ばす「解」をもらった気がした。児童の技能アップを狙った活動設定が勉強になった。

### <6年 保健>

血管などの教材や、ワイチャートに用いた紐とマグネットなど、理解や思考を助ける工夫が参考になった。自分の生活だけでなく、家族の生活まで考える内容が良かった。養護教諭の関わり方も含め、指導が丁寧だった。

## 分科会（県内・県外芸案発表）について

- 各県の提案を聞くことができ大変参考になった（多数）。それぞれの主張点が違い、幅広く考えることができた。
- シンプルな教材は、小規模校でもアレンジしやすく、すぐに現場で活かしたいと思えるものが多かった。系統的に積み上げて研究しておられることが分かった（水泳・ボール運動）。評価と単元構成の大切さ、難しさを改めて感じた。幅ドル（走り幅跳び+ハードル）という新しい発想を知ることができた。
- 協議や指導の時間が短かったように思う。全体会の短縮や会場設定の工夫により、もう少し時間の確保を望む。

## デジタル化について

### ◎デジタルチケットについて

- 受付が非常にスムーズにできた。荷物が減り、スマートフォンで完結した。効率の良いやり方だと思う。
- △ デジタルチケットが届いていない人が多く、受付で手間取った。迷惑メールに入りやすい。チケットに、会場や開始時刻などを確認できる機能があると、さらに良い。

### ◎大会要項のデジタル化について

- ペーパーレス、エコで環境に良い。必要な資料だけをダウンロードでき、管理がしやすかった。タブレットにダウンロードし、今後も管理できる。（大会後も活用可能）
- △ 一括ダウンロードできないのが不便で手間だった。ダウンロードや印刷に手間がかかり、機械音痴にはハードルが高かった。冊子（紙媒体）で欲しいという要望もある（書き込みたい、手元に残したい）。データ名が分かりづらく、タブレット等で資料を探すのに時間がかかった。